特集

霧島屋久国立公園の懐に抱かれて

～平成22年度自然公園ふれあい全国大会～

11月13日（土）から14日（日）に、霧島屋久国立公園において、「平成22年度自然公園ふれあい全国大会」が開催されます。自然に対する理解を深め自然を大切にする心を育（はぐく）む「自然に親しむ運動」の中心行事として、昭和34年から毎年全国各県をもちまわりで行われており、自然公園の魅力などを発信し、人と自然とのふれあい推進を目的としています。

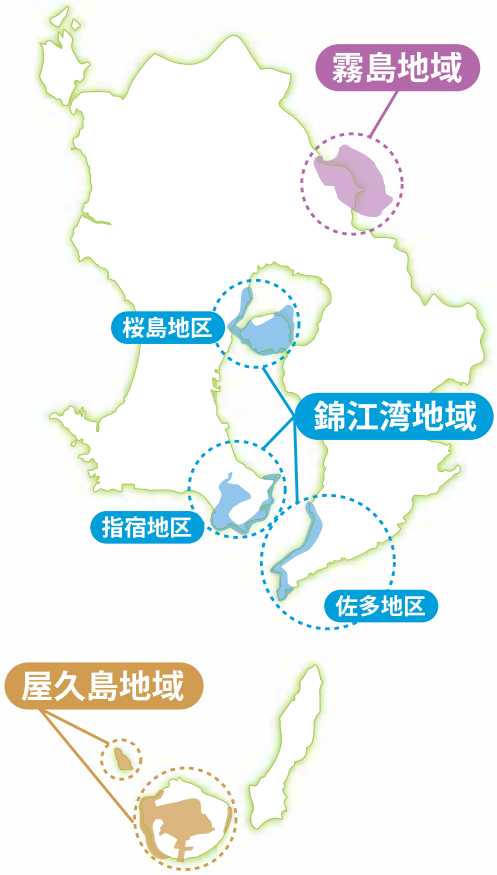
今回の特集では、この秋に開催される大会の内容や取り組み、それぞれの地区の自然や魅力などについて紹介します。

霧島屋久国立公園とは

霧島屋久国立公園は、鹿児島、宮崎の両県にまたがり、昭和9年に日本で最初の国立公園に指定された霧島地域と、昭和39年に追加指定された錦江湾地域（桜島地区、指宿地区、佐多地区）、それに世界遺産にも登録されている屋久島地域から構成されています。公園の総面積は、60,794haにも及び、一帯は霧島火山帯に属しています。霧島温泉郷、指宿温泉、屋久島の尾之間温泉など多数の温泉がわき出ており、毎年多くの方が訪れています。

【屋久島地域】

昭和39年3月16日、霧島国立公園に追加編入された屋久島地域は、佐多岬から南へ約60kmの海上に位置する屋久島の山岳部を中心とした地域と、屋久島の西北西12kmの洋上に位置する口永良部（くちえらぶ）島全域が指定されています。豊かで美しい自然が残されていて、平成5年に島の中央部の宮之浦岳を含む屋久杉自生林や西部林道付近など島の一部が、ユネスコの世界自然遺産に登録されています。



【霧島地域】

霧島地域の中核を成す霧島火山群は、標高1,700mの韓国岳（からくにだけ）を最高峰とし、東西22km、南東18kmの地域に大小23個の火山が連なった複合火山で、生きた火山地形の博物館とも呼ばれています。火山活動によって誕生した火口湖、噴気現象、温泉、高原など、多様で特異な景観がみられます。霧島は、南国にありながら標高が1,700mに達するため、暖帯から冷温帯にかけて多くの植物が分布しているのも特徴。秋になると落葉樹で霧島連山一帯が美しく鮮やかに紅葉します。

【錦江湾地域】

※桜島地区、指宿地区、佐多地区の3地区で錦江湾地域になります。

桜島地区

姶良カルデラの中央火口丘である桜島を中心とし、カルデラ壁の一部である吉野（鹿児島市）、早崎（垂水市）の断がいを含む一帯が指定されています。鹿児島湾の北部に浮かぶ桜島は周囲約55km、面積約77Km²の火山で、島の約85％が国立公園です。かつては文字通り島でしたが、大正3年の大噴火で流出した溶岩により大隅半島と陸続きになりました。現在でも活発に活動し噴火と降灰を繰り返しており、島内のいたるところで自然の持つエネルギーを感じることができます。

指宿地区

薩摩半島の南端に位置し、その秀麗な姿から「薩摩富士」とも呼ばれる開聞（かいもん）岳をはじめ、多くの景勝地が指定されています。九州最大のカルデラ湖である池田湖や火口湖の鰻（うなぎ）池には、多くの希少生物が生息しています。また、標高差が大きく、北限種や南限種の植物が見られることも特徴。鹿児島湾の入り口付近に浮かぶ知林ヶ島（ちりんがしま）と摺ヶ浜（すりがはま）を結ぶ海岸線には、温泉で加熱された高温部があり、指宿名物「砂むし」の名所として知られています。

佐多地区

©K.P.V.B

鹿児島湾岸から佐多岬付近の海岸の一部が国立公園に指定されています。もともと海底であった部分が隆起した地域で、海面から垂直に切り立ったがけが特徴です。九州本島最南端の佐多岬では、水平線のかなたに種子島や屋久島も望めます。また、エジプトと同じ北緯31度線が通っているこの地は、黒潮の影響を受けるため年間を通して温かく、ハイビスカス・ブーゲンビリアなど、熱帯・亜熱帯の植物が覆い茂っています。

つないでいこう　子どもらに！

大会2日目の「こども自然環境学習発表会」の発表予定校の中から2校の取り組みを紹介します。

霧島市立霧島小学校
（キリシマミドリシジミの研究）

霧島で発見されたことで名前がつけられたチョウ「キリシマミドリシジミ」の研究活動を行っている霧島小学校。地元の人たちも、あまり知らない希少なチョウを知ってもらおうと平成13年に始まりました。毎年4月に新6年生がアカガシの木に生み付けられた卵を、近くの山で採取し、卵が成長し羽化するまで大切に育てています。

「育ててみるまでは、大変そうだと思っていたけど、自分で世話をしてみると、とてもかわいくて成長していく様子を見るのが面白かった」と6年生の崎山菜緒さん。それぞれ担当の飼育ケースがあり、毎日の掃除や保湿のための霧吹きなどの世話を欠かさなかったそう。

「飼育研究に取り組むようになって子どもたちが強い責任感を持つようになりました。一人ひとりが愛情を持って育ててくれましたね。この活動を通して、ふるさとに対しての誇りや自然を大切に思う気持ちを持ってほしいです」と担任の浦村正幸教諭。

10年前は、森に入るとたくさんの卵を見つけることができたというキリシマミドリシジミですが、温暖化などの影響で近年では、産卵数も減りめったに見ることができなくなっているといわれています。

❶標本を作製する児童たち。雄はエメラルドグリーン、雌は紫色をしたきれいな羽を持っている。
❷今年の秋口には、夏に生み付けられ卵の状態で越冬するキリシマミドリシジミの卵を観察するため全員で森に探索に行く予定。

屋久島町立一湊中学校
（漂着ゴミの研究）

屋久島の北に位置する一湊中学校。この豊かな自然に囲まれた中学校では、環境教育の一環として、地域にちなんだ研究を行っています。昨年度は、一湊にだけ生息し、国の天然記念物に指定されている植物「ヤクシマカワゴロモ」の研究。今年度は、学校近くの海岸に漂着するゴミの研究に、理科の選択科目で3年生の生徒3人が取り組んでいます。

一湊地域は、黒潮がぶつかりさまざまな生命が溢れる豊かな海域。同時に多くの漂着ゴミも集まってくる地域。「流れてくるゴミのサンプリングを行い、廃棄された物の種類や廃棄された場所の調査結果から、海流の影響や今後の対応策、住民への啓発活動に役立てていけたらいいですね」と担当の永榮元喜教諭。

「ゴミを拾うだけで簡単だと思っていたけど、やってみると細かく分別して記録を付けないといけないから大変だった」と蒲生賀寿季くん。

海岸のゴミ拾いなど住民の取り組みも盛んな屋久島。世界自然遺産にも選ばれた豊かな自然をみんなの手で守っていきたいという思いが溢れる島です。

❶海岸での漂着ゴミの回収の様子。　❷❸回収したゴミは、学校に持ち帰り、どこから、どのような物が流されてきたかなど地域・種類ごとに分けて集計している。